



# ～2月のクラスだより～



## 【2月の保育のねらい】

- ・「ちょうだい」「どうぞ」「やって」など、身振りを交えて簡単な言葉のやりとりを保育者と楽しむ。
- ・スプーンを使って、自分で食べる喜びや満足感を味わう。

ひよこ組

### <雪に触ってみよう！>

先日、雪が降り、いつもと違う景色に思わず指差しするこどもたち。ひよこ組の子は初めて雪を見る子も多かったのではないのでしょうか。

保育者がバケツいっぱい雪を入れて部屋へ運び、興味津々に近くへ行く子、遠くから様子をうかがう子と様々でした。早速雪を触ると、冷たさが面白かったようで、保育者を見てはニコリ！はじめは、雪をバケツに入れたり出したり、床にポトンと落としてみたり、色々試して遊んでいました。そのうち、重ねコップをおもちゃ棚から持ってきて、雪を次々とコップの中へ。“コップの中に雪を入れてみよう”というこどもたちの発想には驚かされました。コップの雪は食べ物に見立てて「おもち」と言ったり、食べるまねっこをしたり、“どうぞ”と保育者に渡して食べてもらったりと、遊びが広がった雪遊びでした。

今回は冬ならではの、雪の感触を楽しみましたが、その他にも小麦粉粘土や砂遊びなど、色々な感触を楽しみ、五感の刺激や好奇心の養いにつなげられたらいいなと思っています。



## 【2月の保育のねらい】

- ・“自分で”という思いを沢山受け止めてもらい、安心して過ごす。
- ・保育者や友達と一緒に見立てつもり遊びを楽しむ。



りす組

### <自分でできた！>

少しずつ衣類や靴の着脱を自分でやってみようとしているこども達。

「ちゃんが」と1人で行う子もいれば、上手くできず「やって」と保育者に持って来る子もいます。そういう時には、「ここに頭を入れるよ」「ここに腕を通すよ」と伝えながら一緒に着替えています。日々、繰り返し経験する中で腕だけは自分で通してみる、ズボンを脱いでみるなど自分でできるところが増えてきました。服やズボンの前後を気にしたり、自分でパジャマを袋に入れて片付けたりする子出てきました。

こども達の着脱への意欲や気付きを大切にしながら、時にはさりげなく手伝ったり、少しでも自分でできた時には「自分で脱げたね」「手が出たね」など沢山褒めて、自信や達成感に繋げていき、嬉しい気持ちを一緒に喜び合っています。



ちゅうりっぷ組

## 【2月の保育のねらい】

- ・増やし鬼を繰り返し楽しむ。
- ・身の回りのことを自ら進んでやろうとし、自信を持つ。

### みんなで遊ぶのって楽しい

成長を祝う会をきっかけに、みんなで遊ぶことが楽しくなってきました。最近では、しっぽ取りに夢中です。大きななかぶに出てきたネコとネズミになりきって遊び、しっぽを取られてもネズミの家に帰れば新しいしっぽをもらえるというルールで遊んでいます。初めは、「自分のしっぽを取られたくない、取られた」と泣いてしまう子もいました。繰り返し遊んでいくうちに、しっぽを取られても新しいしっぽをもらえることが徐々にわかり、泣かずに楽しめるようになってきました。しっぽを取りに追いかけることも、しっぽを取られまいと逃げることも、大人も一緒に本気で走って遊び、両方の楽しさを経験しています。しっぽ取りの他にも、増やし鬼やバナナ氷鬼などルールのある遊びがたくさんあります。今後もルールを伝えながら、楽しんでいきたいと思ひます。



さくら組

## 【2月の保育のねらい】

- ・身の回りの整理整頓をする
- ・自分の思いを相手にわかるように伝える

### 楽しい！やってみよう！はすべての源

体の使い方が上手くなり、また指先の使い方細やかになってきています。パンチングボードの紐通しでは、縫物のように紐を通して形取って楽しんだり、折り紙も、角を合わせて折る、しっかり折り目をつけるなどもできるようになっています。なにより、“自分で作れた” “自分でできる” ことが楽しそうです。

「文字」や「数字」にも興味が出てきて、真似て書いて楽しそうです。“文字を書ける・書けない”(できる・できない)はお母さん・お父さんが気になるころだと思ひますが、“言葉”に興味を持って楽しむことに重きをおいてあげてください。「しりとり」や「あ」で始まる言葉はな～んだ?」などもクラスで楽しんでいます。

鉛筆がしっかり持てると、書く(描く)ことも楽しくなってきます。線を書いているうちに“迷路”っぽくなり、それが楽しくなってきて...と、次の興味にも繋がっていきます。『興味が出た時がチャンス!』なんでも“遊び”にして楽しんでいきたいと思ひます。

何事も “興味をもつ” “楽しいと感じる” ことがスタートですものね!



## 【2月の保育のねらい】

うさぎ組

- ・簡単な鬼ごっこのルールを遊びながら少しずつ覚えていく。
- ・身の回りのことが自分でできることを喜び、進んでやろうとする。

### <不思議を発見！>

真冬の寒さの中でも、こどもたちは元気いっぱい！ひんやりとした空気を肌で感じたり、白い吐息を吐いたり、小さい身体で季節を感じながら過ごしています。

戸外では探索中に霜柱を見つけました。「キラキラしているね」「氷だ」と手を泥だらけにして触ったり、踏んだりを楽しんでいると、「これさ、袋に入れて持って帰ろうよ」と提案する子がいました。「それいいね」と、早速袋に入れて持って帰ってみることにしました。

園に持って帰ってくると、溶けてドロドロに、、、それを横からみて「あれ? なんか変!」「どこに行っちゃったのかな」「なんで溶けちゃったんだ?」と不思議そうに話していました。また、雪が降った時に、みんなでテラスに出て雪だるまを作りました。お昼寝から起きると雪だるまが溶け、横になっているのを見て、「なくなってるよ」「雪だるまがいらないよ」と知らせきたり、「どこに行ったのかな」「あれが雪だるま?」などと柵越しに不思議そうに言っていたこどもたちです。

“不思議だなあ”と感じる気持ちを大切にしたいので、保育者は答えを出さず、言葉を聴いていました。きっとこどもたちはいろいろな思いを巡らせていたのではないのでしょうか。

これからも楽しいことを見つけながら、過ごしたいと思ひます



もみじ組

## 【2月の保育のねらい】

- ・冬の自然現象(霜柱、薄氷)に興味関心をもち観察したり、触って遊ぶ。
- ・友だちの良いところ目をつける。

### <友だちにほめられるってうれしいね>

1月から卒園文集の作業を進めています。今年度は、それぞれのページに『友だちの声』というコーナーを載せることにしました。友だちがどんなことを言ってくれるのか、こどもたちは楽しみにしています。

多いのは、「髪型がかわいい」「服がかわいい」など“見た印象”です。次が、「足が速くて鬼ごっこでつかまらなかった」「ドッジボールの時、ボールに当たらないで最後まで残っていた」など、“遊んでいた時に印象に残った出来事”です。そして少ないのですが、“頑張りや持ち味”を言ってくれる子もいます。「最後まで諦めずに頑張って、縄跳びが跳べるようになったのがすごい」「電車のことに詳しい」「いつもみんなを楽しませてくれる」など、君(ちゃん)って言ったこれだよ、というものばかりです。

人をほめるということはその人を認めるということ。ほくが、わたしが、と自分中心だった小さなこどもたちが、自分じゃない誰かのことを認められるくらい成長したということ。その言葉の裏には「すごいな」ばかりではなく、「あの子みたいにできるようにになりたい」という気持ちも、「でもほくは、わたしはできない」と比べる気持ちもあると思ひます。憧れたり、悔しがったり、負けるもんかと奮闘したり、多くの葛藤を経験し乗り越え、ほめたりほめられたりして、こどもたちには大きく成長して欲しい。そんな願いを込めて、みんなの光るところをみんなで探しています。

